

平成30年度 第6回 市民参加推進会議（会議録概要）

開催日時	平成31年3月1日（金）午前10時から午後1時6分まで
開催場所	市役所東庁舎3階会議室302
出席者	三浦永司会長、宮本智美副会長、小口進一委員、手塚崇子委員、石田精一郎委員、市川温子委員、金子龍治委員、徳本悟委員、中川幸子委員
事務局	市民活動支援課 岡田課長、池内副主幹、清澤主事補
傍聴者	なし
議題	(1) 平成29年度市民参加の実施状況に対する総合的評価について（答申案） (2) 基準・水準について (3) 市民参加実施状況調査票について
資料	〈資料1〉平成29年度市民参加の実施状況に対する総合的評価について（答申案） 〈資料2〉基準・水準について 〈資料3〉市民参加実施状況調査票について

（会議趣旨）

- 平成29年度市民参加の実施状況に対する総合的評価（答申案）について、前文、対象事業別の総合的評価及び提言の確認を行った。
- 基準・水準の内容の最終調整を行った。
- 各課等が記載する市民参加実施状況調査票について変更箇所の確認を行った。

（会議内容）

1 開会

2 会長あいさつ

本日は、議題一つ目に、平成29年度市民参加の実施状況に対する総合的評価（答申案）、前文や提言と合わせて、コメントも含めた最終的な審議と確認をさせていただきたい点、二つ目に以前行いました基準・水準の見直しの最終確認、三つめに市民参加実施状況調査票の変更箇所の確認となります。それで、議題（1）の答申案については、配付資料にもありますように、皆さんからいろいろな具体的な答申の提言を一覧としてまとめておりました、ご熱心なご意見をいただいております。そこで提案なのですが、基準・水準、それから調査票については時間かからないと思うので、まず2番、3番を固めてから1番に戻って十分審議していただければと考えております。

3 議題

（2）基準・水準について

- 【b委員】事務局から資料の説明、お願いします。
- 【事務局】資料2なのですが、もう大分前になるのですが、本年度第1回の市民参加推進会議において、基準・水準のほうの見直しということで、委員の皆様方からいろいろご提示いただいたものを、さらにその1回目の会議で修正通したのになります。

黄色のところにつきましては、黄色のマーカーの部分なのですが、これは第1回の会議に当たりまして、各委員から提言というかご提示ですね、修正とか、こういうふうに修正したほうがいいのではないかとご提示いただいた項目を黄色で色塗りしています。ですから、会議の中でこの黄色の部分はそっくりそのまま変わる場合もありますし、ただ、提言だけで終わって、会議の中でそのままにしておこうというものも黄色になっていますので、もともと現行の部分と変わっていない部分もありますし、変わったところも黄色で示されています。

第1回の会議を踏まえて、会議の中でいろいろ議論していただいて、文章表現とかこうしたほうがいいのではないかとということでまとめたものが緑色の箇所になります。

今日は特に3ページ目のアンケートの調査対象の水準のところなのですが、こちらが現在、第1回の会議の中でもともと入っていたのが、こちらの調査対象の水準のところに入って、もともと現行で入っていた文字が、無作為抽出が望ましいということと、あと対象者は内容と一致する対象かということで入っていたのですが、これはもう当たり前でしょうということで、第1回の会議のときにこれは削除することになりまして、それ以降は該当なしとなっていますので、ここについて新たに加えるか、そのまま空欄にするかというところをご審議いただきたいと思います。

●【b委員】事務局のからご説明あったように、特に整理した上で穴が開いてしまったのが、3ページのアンケート調査対象の水準のところの該当なしのところ、ここどうしようかということでございます。ほかに黄色とか緑ございますが、まず、3ページのアンケートの調査対象に絞ってご意見をいただいて、整理した上で、その次に全体に戻りたいと思います。

ここの該当なしのところでご意見ございましょうか。

なければ、私から意見申し上げます。左にあります調査対象の基準のところ、黒丸が四つあります。下の二つを右の水準にスライドさせたらどうかというのが私の意見です。

調査対象が必要以上に限定されていないかということと、限定されている場合でも、その理由が適切かということと、

ほかにご意見ございましょうか。

●【c委員】この案については、賛成です。今、おっしゃられた該当なしのところ、右に移すということなのですが、移されても私は構わないと思います。ご提案があったことについて異論はありません。

●【b委員】この二つは右に持っていくということによろしいですか。

委員賛成

●【b委員】c委員ご意見ありますので、全体について何かご意見ありましたら、1ページ目からいかがでしょうか。

●【c委員】全体を通して一つだけ質問です。ここに書かれている、黄色で修正された部分は私の意見をほとんど取り入れていただいております、このものについては賛成です。ただ、一つ注文させていただきたいのですが、市民参加条例の求める基準と、それから望ましい水準、これ評価するとき合算しているんですね。僕は合算する必要はないと思うのです。もし合算するのであれば、この表の中に合算しますよというようなことを書く必要があると思うんですね。まず、合算することに反対いたします。しかし、皆さんのご

意見が合算する意義であるということであれば、ここに明記してもらいたい。

●【b委員】それは、例えばこれを物差しにして点数を積み込みます。基準のほうで2点、さらに具体的な水準があって2点とつけて、それを合算していくわけですがけれども、合算しないほうが良いというご意見のその趣旨がまいち。

●【c委員】というのは、この条例で求める基準というのは、かなりレベルが高いというか、要求度が高いのですよ。それに対してさらに加えてというのは、そんな大したことではないですよ。3カ所で配っているのを4カ所に配ったら、もう2点がつくと。こんなばかな評点の仕方はないと思うのですね。せいぜい0.1とか0.2とか、最高でも1点ぐらいだと思うのですね。それを合算するということになりますと、我々が求めているところだけを重点的にやれば、点がすごくよくなってしまいます。そういう点、それぞれの過重評点を考えると、我々が望ましいといった評点というのは極めて似ているところか、もっと低くてもいいのではないかと。合算するのであればと思うのです。それも何回も私、申し上げているのですけれども、聞き入れていただけないので。

●【b委員】そうすると、合算することがだめなのではなくて、点数の比率を変える必要があるのではないかとというご意見。そもそも合算しないほうがいいのではないかとというご意見。

●【c委員】そうですね、別々の。

●【b委員】もしも合算するのであれば、比率を考えたほうがいいのではないかとというご意見ですね。

●【c委員】そうですね。

●【b委員】はい、わかりました。点数をつけるとすれば、こういう物差しでということでご審議いただきたいと思います。

●【c委員】つけるのであれば、ここに書いておいてもらいたいと。

●【d委員】私は、この条例が求める基準のところはまずクリアできていて、それにさらに望ましい基準ということで、まずはその基準は多分、どの課においてもよく知っていることであろう基準なので、どの課においても、何も言わなくても少なくともするであろうと思われる。それに対して、さらに何か新しい市民参加の形をもっと進めようという意欲というのか、そういう課の姿勢というのですか、それが望ましいほうの水準に当たって、その姿勢があるかないかで、課の評価の考え方に大きな違いがあると思うのです。なので、望ましい基準をさらに新しい手法入れてみたり、そういうことをより進めようとしている課に対しては、点数で言ったら零点幾つとか0.5とか言わずに、もっと当たり前の基準から言ったら、それよりはさらにもっと大きな加点を加えてもいいと思っているので、このままで私はいいと思っています。

●【b委員】つけ加えれば、条例があって、逐条解説というのがあって、それについては基準があると。その基準の、具体的な説明を水準でしているのかなと思っているのです。

●【e委員】基準については本来しているはずなので、ここでいったら変な話、点数を稼げるころなのだけれども、実際にそれも、基礎的なところもやっていないところも実際あって、課によっては、基準の決まっていることなのに何でだろうという部分もあるのが実情で、右側の望ましい水準は、それをさらに市民参加という視点で、もっと市民参加を進めるために必要な条項で、こうなってほしい。

でも、もしこの望ましい水準も少しずつ達成されたのであれば、それが逆に言えば左のほうに、今度は基準のほうに戻って、もっと基準を高くして、プラスもっと右側の望ましい水準をさらに高くしていくというのがいいのではないかと思います。

●【c委員】私もコメントして直してもらった中に、望ましい水準に書かれているやつがあったのですね。これは本来、基準の中だろうということで、基準に随分移してもらったのですね。おっしゃられるとおり、もう少しレベル上がってくると、本来それは基準の条例の中で具備して、当然、市民推進をやる行政はこのくらいはやってもらいたいなどというのがあるのですよね。

●【b委員】今の論点は、この枠組みの中でどうしようかという話と、この枠組みそのものどうしようかという二つがある。今、枠組みをどうしようかという話は置いておいて、とりあえずこの枠組みを前提で議論を進めてもよろしいのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。

委員賛成

●【b委員】次に結果公表の取り扱いというところで、一つ目は水準の下から二つ目の結果公表までの期間が適当かは、基準のほうに持っていったほうがいいのではないかと思います。

それはその下にまた結果公表の話が出ていて、1カ月以内というその期間が出てきてしまうのですよね。だから、期間が、1カ月がいいのか2カ月がいいのかわからないけれども、何が適当かという基準があって、水準としては、1カ月以内になっていけばまだ点数高いですよという整理になるかなという気がいたしました。

もう一つわからないのが、その上の、非公表の理由が適切であっても、公表の工夫をした上で公表を行えると良いのは矛盾しているのじゃないかと。

●【c委員】今、おっしゃられているのは、この表現のほうがいいのではないかと思いますのですけれども。こういう事例というのはたくさんあると思います。

●【e委員】非公開の理由が適切ななのだから、要らないと思います。私も会長の言うとおりでと思います。

もう一つは、下の期間のほうは、左側に移して、1カ月以内と期日を残しておく、バランスがいいですね。

それと、気になるのは、基準のところの事前周知の方法のところ、情報公開コーナーとかホームページとか図書館とか、これは必ず行うのだけれども、市報というのが抜けていることです。会議開催するときは、事前に市報で告示して開催したほうがいいと思います。

●【b委員】会議の開催通知は見たことない。

●【事務局】ほとんどやっていないと思います。

●【e委員】東京は多いです。市民会議を開催しますと。何時から何時までというように、市報にコーナーつくって出している自治体も結構多いので、取り入れたほうがいいのではないのかと思います。

●【事務局】広報締め切りが、発行日の約一月以上前が締切日となっています。例えば、4月1日号であれば、3月1日より少し前ぐらいが締切日になります。このような状況からなかなか広報掲載ができないという状況はあると思います。

●【g委員】私もそのことは気になっていて、以前に広報の担当のところ、要望を出したことがあるのですが、掲載されるものと掲載されないもの、掲載される場所を含めてわかりづらいので、統一して毎月1日号には載せると。それは表として載せてしまうと。何日は何々、何日は何々と、いわゆる傍聴ができる会議だとか、パブリックコメントをやっているやつだとか、そういうふうに整理しちゃうと、市民のほうとするとわかりやすいのではないかと、要望を出したことがあるけれども、動きがないです。

●【e委員】個人情報に関係して市役所では非公開としていることは多くあります。したがって、非公開と決めた情報は出さない方がいいです。

●【b委員】金子さんのご意見もありますけれども、下から三つ目の「非公表の理由が適切であっても、公表の工夫をしたうえで公表を行えると良い」というところを削除してもいいかどうかという選択肢でよろしいですか。

では、削除してもよろしい方、挙手願います。

〔賛成者挙手〕

●【b委員】そういうことで、これは削除ということにいたしましょう。

確認ですけれども、その下の二つ、期間が適切かを左に持ってくるということについてはいかがでしょうか。

委員賛成

●【g委員】会議録は、望ましい水準とかの問題ではなくて、基礎的なことだから、左の基準ではないかと思えます。

●【b委員】逐条解説にも、どちらでもいいとある。1ページそれでよろしいですか。

委員賛成

●【b委員】全体で基準・水準については、このようなまとめ方でよろしいですか。

●【事務局】1点よろしいですか。2ページ目、パブコメの右側水準の一番下の結果公表・取り扱いの下から2番目の黄色の枠なのですけれども、ここも今の審議会の非公表の云々というところと何となく表現が似ているなということがありまして、適切な募集をした結果、応募意見がない場合であっても問題ないとするが、募集方法が水準を満たさない場合であれば問題ありとするという、この表現はわかりやすいかどうかがあります。

もともとこの黄色の2行目の応募意見がないというところが、現行では、ないではなくてゼロとなっていたのですけれども、ゼロをない場合であってもと変えただけの表現なのですが、全体としてこれで意味が通じるかどうか。

●【e委員】ここは、点数を取るためのものがきちんと書いてないと、私たちが点数ゼロとか1とか2とか考えられないと、これ、問題ないとあると、問題ありと考えるに対して2点とか1点とかつけられないから、これ文章がおかしいと思えます。

だったら、問題ない、もしなかったとしても、それに対して例えばないよということを示してあれば点数がプラスになるのかとか、そういう書き方でないと、判断基準がつけられないのではないのでしょうか。

●【e委員】誤解されてしまうから、全部削除した方がいいと思えます。

●【e委員】ここは、加点欄だから要らないと思えます。それだったら、この2番目のところに提供した場所と同じ場所で結果公表を行っているかとかいうもので点数が足せばいいわけだから、三つ目は要らない気がするのですよね。

●【b委員】そもそもここは、無いほうがいいのではないかという意見なので、削除でよろしいですか。

委員賛成

●【e委員】パブリックコメントで出された意見は、審議会等にフィードバックされたかどうか。結果の取り扱いを職員だけで勝手にやったのではなくて、きちんと審議会を通して決定したということが重要です。

●【e委員】ちょうど3ページにアンケートの結果を審議会などで利用しているかと書いてあるかは、同じようにパブリックコメントのところも足されたら同じになると思います。パブコメとアンケート両方とも。

●【事務局】パブコメの結果公表・取り扱いの基準の三つ黒丸があって、1番目と2番目が同じ、似たような表現なので、これ合わせても問題ないのではないかと思いますので、同じような表現なので、これは一つにまとめる方向でよろしいですか。

●【e委員】一つにまとめていいのじゃないですか。

●【g委員】細かく見ていくとたくさんあるなと思っていて、今、一番下のところは1個にしてくださいということと、それはいいのですけれども、もう一つ言ったのは、提供資料の緑の部分と事前周知の方法のその他というやつも、ほとんど言っていることが同じなので、どっちにするのか1本にしてしまったほうがいいのではないかと思います。また、先ほどc委員がおっしゃるようなことでいえば、左記に加えを取って私もいいと思うけれども、対象となる方が集まりそうな場所と言った場合に、じゃあこれは誰のことを言っているのかと、市民一般ではなくて、このパブリックコメントに該当するような方を指しているのか、この基準をつくっている市民参加推進会議としてはどういう解釈なのだと言われた場合に、窮するなと思ったりはするので、どこまで細かく見ていくのか、すごく時間かかるなと思います。

●【b委員】ここは、逐条解説は、そのまま置いておいて、基準も余り手を入れないで水準のほうだけかなと思って見ていたのです。今回は事務局提案のこの緑と黄色のところの範囲でいかがでしょうか。我々第5期委員は、あと1年ありますので、今回は、前回会議での意見を踏まえ変更している黄色と緑のところの修正でいかがでしょうか。

●【h委員】4ページ、意見交換会の開催場所、時間、回数のそこの基準のところ、回数だけでなく全ての市民が参加可能な場所や書いてあるのですけれども、全てはきついのではないかと思いますので、ここは、多くの市民とか書いたほうが、しっくり来るなと思ったのですが、皆さんはいかがでしょう。

委員賛成

(3) 市民参加実施状況調査票について

●【b委員】事務局、資料の説明をお願いします。

●【事務局】資料3の1と3の2になります。照らし合わせて見比べていただきたいのですが、主な改正場所は、各市民参加の手法ごとに、これまで曜日が記入する欄なかったのですが、そこの括弧、何月何日の次に括弧を全体的に加えています。

そこが1点と、あと審議会3ページ、資料3の1、改正のほうの3ページなのですが、一番最後に8番に担当課の自己評価という欄を設けました。

続きまして、審議会資料、改正のほうの3の1の4ページの審議会なのですが、こちら、現行のほうと見比べていただきたいのですが、審議会の会議の概要とありまして、3番で概要とあるのですけれども、ここに、これ細かいのですけれども、委員の人数とか入れる欄があって、公募委員と2行目にありまして、括弧書きで（うち無作為抽出委員数）と、公募委員のうち手挙げ立候補の委員以外の無作為抽出委員が何名かわかるように加えています。あと、公募委員以外に、その審議会委員会の委員全体として内訳になるのですが、市内在住・在勤者が何名ぐらいいるかというように新たに加えています。内訳のところなのですが、3の概要で一番上に委員の人数とありまして、その下に内訳とあるのですけれども、そこに在住・在勤者という文言を新たに加えております。審議会委員会全体の委員の中で市民が何名ぐらいいるかというように、参考までにこういう欄を設けました。続いて5ページ目なのですが、4の公募委員の無作為抽出と無作為抽出以外の内訳がそれぞれわかるように、表を細かく改正いたしました。改正は以上になります。

●【b委員】ありがとうございます。ご意見ございますか。

●【h委員】見やすくなってよかったなと思っております。

●【b委員】公募委員と無作為抽出委員ですけれども、私は外数のほうがいいのではないかと考えている。そもそも31年度から無作為抽出委員、本格始動するわけですね。だから、きっちり別のものだというふうに整理したほうがいいのではないかと思うのです。

●【事務局】もともと無作為抽出は公募委員の委員さんの世代ですとか、あと、同じ方が何年もやられていてと、あと男女のバランスとか、その辺を考慮して偏りがないようにするためには無作為抽出ということで、広い意味で公募は公募なので、事務局としては合わせて、同じ位置づけで考えていまして、庁内ではそういう説明しています。

●【d委員】市民にとっては、広報で募集をかけられたときに公募委員の数が減ったような気がするのですよ。今まで3人取っていたのが1人しか募集がなくなってしまったという見方をしてしまう。

●【d委員】一般公募に応募しようとする人が、枠が減ったがために、1人だと無理だとか思って、かえって応募しなくなるのではないかという思いもあるのですけれども。

●【e委員】例えば、無作為抽出も含めて何名ですとか書くとか、何か出し方工夫しないと。

●【d委員】一般に応募するに当たって、敷居高いと思うのですよ。だから、かえって狭くなった、狭くなった印象が広報から見ると、中に入ってみたら公募委員がいたというのはわかるのだけれども、一般の市民にとってそれは、市民枠が減ったような意識になってしまう。

●【b委員】無作為抽出の記入の仕方は、内数でよろしければ、それで結構です。

調査票は、4ページの会議の概要の3.概要がございまして、ここに委員の数があって内訳があります。それで公募委員とあって、（うち無作為抽出委員数）という表記になっています。先ほどの事務局の説明では、無作為抽出も公募だという概念で整理すれば当然、こういうことになるのだと思います。5ページの右側のほう、下のほうの枠の4番、公募委員がありますけれども、別々に記入しているのですね。

これでよろしければ、この様式の表記のとおりとして、調査票はこの提案どおりでよろしいですか。

●【e委員】あと一つあります。配付した資料の一覧というのをどこかにつけておいてもら

えないですか。どんな人に配付したのかということがわからないと思います。この市民参加でどういう資料を配布したのかというその一覧表。例えば自己評価の下あたりに枠作って、配付した資料一覧と書いておけば、意見交換会で出したのであろうが審議会で出したのであろうが構わず一覧表にしていただければと思います。

●【b委員】 そうであれば、概要に配布した資料一覧の欄を加えることでよろしいですか。

委員賛成

●【b委員】 では、調査票については終わりにしたいと思います。

(1) 平成29年度市民参加の実施状況に対する総合的評価（答申案）について

●【b委員】 進め方ですけれども、まず事務局の前文、それから提言については皆さんからいただいたご意見を入れながら整理していくという方向でよろしいでしょうか。

事務局から答申（案）及び提言（案）の説明をしてください。

●【事務局】 資料1 ページ目になります。前回、1月の第5回会議のときに提示させていただいたものとベースは一緒ですが、前回の会議で職員アンケートも盛り込んでほしいということでしたので加えました。併せてアンケートやパブリックコメントの審議会、委員会等へのフィードバックというような文言も加えた答申としております。以上の2点を加えております。提言につきましても、答申の前文と一緒にのですけれども、前回の会議の資料の中では、情報提供のところしか文言記載していなかったのですけれども、会議で職員研修の実施ですとか、その辺もご意見いただきましたので、まず職員研修の実施と、あと今年度、これまで通してそうなのですけれども、アンケートとかの、パブコメの審議会等へのフィードバックというところが欠けている部署がございましたので、そこはあえて強調させていただくような形で、提言は3点とさせていただいて、修正のほうをさせていただきました。

●【b委員】 前文のほうについて何かご意見ありますか。

●【e委員】 委員の意見をまとめた表は長いので、全部説明してもらおうのではなく、ここだけ入れたいというところに限定して意見をもらえばいいのではないですか。

●【h委員】 事務局で作成した資料だけでいいと思います。これを読んで皆さんが、いや、これを入れてほしいとかということ。この小さい字を全部読むのは大変なので、私はこの資料で進めていただきたいと思います。

●【b委員】 申し上げます。前の1ページについてです。本年は評価した8事業中4事業が良好という判定であった。これ、本年は本年度ですね。それから、提言、一番最後に出てきますけれども、「アンケートやパブリックコメントの審議会等をフィードバック」及び「職員研修の実施」。

それで3点目、職員研修の実施になっていますけれどももう始めていますので、職員研修の充実がいいかなと思っています。その3点です。ほかにございますか。

●【i委員】 3番目のパラグラフの2行目のところです。職員が市民への事業の説明責任を果たし、市民参加に対する意識を高めるためと、ここのところは削除でいいと思うのです。というのは、これは市の中でやるべき仕事。さらに言ったら、これは伊澤市長がやるべき仕事で、我々推進会議というのは外部で市がされたことを評価する立場ですから、職員方、この職員ヒアリングでもって担当課の職員方の啓蒙とか意識啓発をすとか教育をすると

かという機会、これ、担当課ヒアリングですよ、職員ヒアリングと書いてありますけれども、それでやっているわけではなくて、貴重な時間を割いて来ていただいているので、そのお時間の中でどういう事業をされたかということを理解するために職員ヒアリングをやっているのだから、ここは意味不明になるので、この職員の市民参加に対する意識を高めるためと、これは省かないとおかしいと思うのです。

●【b委員】これは、答申にしたとき、こんな言い方してなかったですか。踏み込んでしまったのだけれども。それで、あとヒアリングの効果を高めるという趣旨が、そこまで踏み込んで、職員の方々にそこまで意識してもらいたいという気持ちで多分、提言したのだなと思う。

●【i委員】答申を受けるのは市長ですよ。答申を渡すのは推進会議ですから、この言い方はそののりを超えてしまっていると思うのです。だから、あくまでも市長さんは職員方についてのそういう指導をちゃんとやってくださいよと、それを見させていただいてこういう答申を出しましたということで、これだと中まで手を突っ込んでしまっていると思いますよね。市民参加に対する意識を高めるため、職員研修をやっていますとなると。

●【e委員】そうだと私も思うのですけれども、だったら意識を高めるのを確認するとか自分たちが高めているわけではないので、高められているのを私たちが見る、確認したりチェックするという意味ですよ。だから、ここ文章を違くするか、この文章のままだと、確かにこれでは役所の立場にこっちが立ってしまっているからということですよ。文言を変えるか、この文章を消すかのどちらかだと思うのですよね。

●【i委員】意識が整った結果として、こういう事業、市民参加をされるかというのを我々が評価したわけですね。だから、意識が高まったかどうかということは関係なくて、意識が高まった結果として、実績が上がったものを我々が客観評価をしたものが答申ですということだと思います。

●【b委員】2行目の間から3行目の頭のところは削除することでよろしいですね。ほかに意見ございますか。

●【g委員】趣旨だけ言わせていただくと、点数のつけ方だとかそういうのを含めて、市民の方が読んだり職員が読んだときに、どういう評価をしているのかというのを少しわかりやすく説明してあげたほうが受けとめやすいのかなという趣旨と、あとの二つの項目は従来から言っているようなことで、项目的に内容ではなく、ということで受けとめていただければ結構です。

●【c委員】全般的に非常にいい答申の前文になっていると思いますが、細かいことなのですが、下から4行目に、充実を行いますとあるのですよね。行いますというのではなくて、これ何かの形で、今の状態ですと、役所が書いたような感じになりますので。受け身の形、こういうようなことをお願いしていますとか提案しましたとかという形にしたほうがいいのではないかと。

●【e委員】提案しますでいいのではないですか。

●【c委員】そうですね、提案しますと。この文章は会長が書く文章ですから、会長に考えていただいて。

●【e委員】会長が文章を書いていいと思います。

●【e委員】提案のところなのですからけれども、三つの提案、その市民への積極的かつ適切

な情報提供って、わかっているようなわかっていないような感じがするので、そこをもうちょっと明確にさせていただいたほうがいいかなと思って、例えば市民への積極的かつ適切な情報公開及び、例えば形式、透明化とか、私は、実はこれ書いたの私なのですが、情報公開の透明化と形式の統一化とか、何かもう少し文言を具体的に入れてもらったほうが、情報公開している、情報提供しているってなってしまうので、私たちはどこを不足しているかと思っているのかを書いたほうがいいかなというのと、また、職員研修については、実施は先ほど会長が言われたとおりしているので、充実とかでいいと思います。

●【b委員】これは今度、中身との関連もありますので、このテーマは三つ出すことでここでもよろしければ提言のほうに移りますので、中身を見てそのタイトルでいいかどうかということに戻っていただいてよろしいですか。

●【i委員】四つ目のパラグラフのところで、3行目ですね。本年度じゃなくて今年度ですか、今年度評価した8事業中4事業が良好◎という判定を獲得するなどって、ここで唐突に良好◎というのが出てくるのですね。何だろうという話になって、それはその次の2ページを見ると、ああ、そうなんだというのがわかるのですけれども、だから、この良好◎というのをぽんと出すのであれば、g委員おっしゃるように、どういう評価をしたのかというのは簡単に入れ込む必要があるのではなかなかなと思うのですね。

というのは、良好◎というのは75点以上で全部良好◎になってしまうのですよね。4事業あるのだけれども、4事業はすごく濃淡ばらつきがあるのですよね。だから、良好だから手放していいというわけではなくて、会長おっしゃるとおり、達成率から見たら良好◎になっているけどどうかなというのものもあるし、だから、その辺書いておいたほうがいいかなと。それから、落ちてしまうところでも数点差で落ちてしまっ、○じゃなくて△になったりとかというのがあるので、簡単に評点、こうなっていますよというのは、ここで良好◎というのを特出しするのであれば、どこか要るのではないかなと思うのですよね。

●【b委員】そこは出すか出さないかというのはあると思うのですけれども、◎が何だったか、×が何だったかというなら、8事業中4事業が良好と言っておいて、それは何だというのは、2ページを見て○、×、△と点数の区分とかは2ページ以降見てもらえばいいのですよ。

●【c委員】この答申というのは、全部で34ページ全体を示しているわけですから、2ページ目にその辺の説明が入っているので、今、会長おっしゃるように、良好、◎が唐突に出てくるなら◎を削ると、その点はいいのではないかなと思います。

●【e委員】獲得するという表現が気になるので、判定結果であるとか、何かもう少し言い回しにした方がいいと思います。

●【j委員】四つまでずっと丸がなくて一文なのです。すごく読みにくいので、という判定であった。このような着実に充実したのほうを読みやすいです。それと、もう一つは、なお、1事業は継続のため付与は保留し、この文章の今後の取り組みに生かしてもらおう、どちらかという、活用の活のほうかふさわしいかなと。活かすという字です。

●【b委員】提言の組み立て方の話として今、三つありますよね。これ、冒頭のほうがいいのではないかなと思うのですよ。結論があって、それでこう説明に入ったほう。

じゃあ、これ一番前に持ってくるということでもいいですね。

●【e委員】今回の定義も三つありますと書いて、三つを書いて、その後、1市民への何と

かってその具体的なフォローとかってやると、項目ごとに説明があって読みやすいかなど。

一つの案としては、今回の提言では三つありますと書いて、①市民への説明で何とか情報と書いているところに、また解説、②アンケートや何とかという解説って、1番目のを三つ書くといいと思うのですけれども。一番上に三つ書いておいて、さらにあと、三つ項目別に書くと詳しく見られる。

●【事務局】ここは見やすく三つがわかるように改めます。

●【g委員】結論的には大体理解したのですけれども、この2の一番トップの実施状況の状況は要らないのではないかと。あとは、一番下の1、2、3、会長とe委員の提案どおりでいいと思うのですけれども、1、2、3を中見出し的したらいいかなど。それで、会長言ったように、白井市ではというのを最後、後ろにつけてしまうとわかりやすくなるかなと思います。

●【i委員】今、ここで出ているのは1、2、3とあって、表題だけなのですよね。1番について情報提供は何をするのか、2についてのフィードバックというのは具体的にどうするのか、職員研修って何の研修をやるのということ具体的に書かないと提言にならないと思うのです。

●【b委員】部課長研修といったときに、私はそこまで踏み込む必要ないと思っているので充実ぐらいがいいかなど。

入れるとすれば、階層別研修とか、イメージが湧くような書き方で十分なのではないかと思っています。

●【e委員】職員研修の意味、何でもっと充実してほしいかの意味って、例えば今日やった基準・水準のことをきちんと理解しているのかとかという具体的なことをやってもらうことによって、自分がかかわったらこういうのがあるから、この時期にこういうことをしなくてはいけないという目安をつけてもらうというのがとても大事な事項だと思っているので、だったらそういうことを少し盛り込むとか。

●【e委員】例えば、実際に私たち、これを見て知っているだろうけれども、もしかしてわかかっていなかったら意味もないじゃないですか。その辺を市民参加とって、市民参加のことだけ話を聞いたらわかるわけでもなく、どういうことが求められて、何が点数に反映しているのだということも一部理解してもらわないといけないのかなというのはすごくありますけれども。

●【c委員】この文章、非常にコンパクトにまとめられて、非常にいい文章だと思います。内容もこの三つ、今、差し当たって我々が今年提言できる三つが盛り込まれておりまして、特にアンケートやパブリックコメントの審議会へのフィードバック、これ、今まで完全に無視されたような感じのところもありましたので、これが入ったことによって非常に提言事項がよくなったと思います。それから、i委員がおっしゃるとおり、それぞれについて説明を加えれば非常にわかりやすいのですけれども、これは提言事項ですから、そこはこの程度で十分ではないかなと思っています。

●【h委員】私もそう思います。できるだけ文章というのは、私が感じるの、文章はコンパクトで完結なのがいいと思っています。

●【d委員】私もこれで大丈夫です。何の違和感もなく思っていたのですけれども。

●【e委員】i委員の言わんとすることもわかるのですが、しかし提言書に余り長くすらす

ら書いてもしょうがないので、さらっと例を入れてはいいのではないかと思います。例えば、審議会やアンケートなどの事前周知と結果公表などのほか、パブリックコメントに関しては審議会等へフィードバックする機能の充実を図るといったことが求められていると。そうすると具体的に提言になります。さらには、職員研修のこと。皆さん、市民参加や情報の策定、公開などに関する研修の場を設定しとえば具体的になります。全く事例がないと何やっていいかわからないし、余りいろいろ書くとしつこい、さらっと指摘するのがいいでしょう。

●【i委員】職員研修に関しては、項目の中で統計研修を入れていただきたいと思うのですが、3項目の中で1番目が非常にぼやけているのですよね。だからこれはもうちょっと詳しく文章で書いてほしいなど。積極的かつ適切な情報提供ってこんなことやってたよと言われたら終わりですよ。

●【e委員】例えば、情報期間のある一定期間を設けて、その期間まできちんと公開するとか、形式を統一化して見やすいようにするとか、市民に対して見やすい情報公開というところとかを書いて、少し具体的に書いてもらうことでどうでしょう。

●【i委員】去年、今年と2カ年やっていて非常に気になったのが、アンケートに関して、本当にわかっているのかなというのがすごく気になったので、今、国会でもかなりやっていますよね。だから、本当に職員方が統計についての基本的なことを理解されているのかなのかなというのが非常に疑問なので、そういう知識研修はやってあげる必要のあるのではないのかなと思うのですよね。統計に関しての基礎知識の研修をやってくださいということです。

●【b委員】研修の中身の一つの事例としてということですね。

●【e委員】職員研修のところに市民参加、情報の公開、さらにはアンケートなどの統計に関する項目を加えた職員研修の場をつくと。

●【d委員】今、市のほうでアンケートってすごくお金をかけないやり方というのを考えているというか、それで今度、私も参加している男女共同参画のほうでも、携帯のコード読み取りでアンケート、スマートフォンを使ってやってもらうというようなアンケートの方法、手法を取って、そうするともう集計も一気にできるし、費用がからずにできるので進めようとしているのですけれども、それってすごく、それに反応できる人たちというのは限られていっているし、それに興味を持たなければ素通りされてしまう話だし、だから、非常にアンケートに対して、それをどう評価するかというのはあやしくなっているのではないかと考えているのですけれども。

●【e委員】意見として出させていただいたのが形式の統一化というのがあって、課によって違うと見つけるほうが大変なので、その辺をきちんと統一していただければと思います。

●【b委員】具体的な例示をいくつか加えるということによろしいですか。いいですね。個別のコメントは修正点ありますか。

●【h委員】細かいことなのですが、審議会などを平日夜間や土日休日「開催が必要であった」というところが3カ所ぐらい出てくるのですけれども、私これ、「開催も必要であった」のほうがわかりやすいのではないかなと、私の意見です。例えば8ページに、庁舎整備事業があります。ここの8ページの上のほうに、実施状況とコメントとありまして、コメントと書いてありましたその次、2行目に、平日夜間や土日休日開催が必要であ

ったとあるのですけれども、私の感覚だと、「も」なのですけれども。土日休日開催も必要であったと思うのですけれども。

●【e委員】賛成。

●【h委員】これが3カ所ぐらい出てくるのですね。4ページ、8ページ、15ページにあります。

●【g委員】今、答申と提言の話とそういう話、今のお話があったのですけれども、答申のあったの2ページ、総合評価の一覧表と思ったところなのですけれども、まず基本的なことという、達成率は意味がないので、これは削除すべきだと思います。

それから評価で、上段はヒアリング後の点数で、括弧内はヒアリング前の点数という、これもほとんどヒアリングとヒアリング前後で変わったのが1と2だけの、わずか数点、一、二点の話なので、これをわざわざ載せるのはかえってわかりづらくなるので、これもやめるといふように採点すべきだと思います。それが1点です。それから、細かいことと言うと、私、ゴシックという字が好きではなくて、それぞれ各事業の評価のところほとんどゴシック使っているのですけれども、全部基本的には、私でいうと明朝にしてしまったほうが良いと。その上で、大きな全体的なところだけとか表題だけとか、そういうところだけゴシックを使うだとかに改めたほうが良いと。例えば7ページの実施した市民参加の評価のところ、評価項目配点とかというのはゴシックなのですけれども、ここだけ点数という標記が明朝になっている。同じところという13ページから16ページにかけても点数が明朝になっているので、全部統一して直してもらったほうが良いと思います。また、先ほど説明があった調査票でも書体が統一されていないので、統一してほしいと思います。

●【b委員】よろしくお願ひします。それと、2ページ目の話がありましたので、広報に載せる話もまた関連であります、一つ、まずヒアリング前とヒアリング後は、結果だけで括弧要らないのではないかとご意見ですけれども、これはこれでよろしいですか。

●【e委員】前と後とどちらを載せるのですか。

●【e委員】括弧は全部取ってしまうのでしょうか。

●【b委員】そういうことですね。それから2ページ、評価の下の欄の括弧、最近はぶれなくなりましたが、以前随分ぶれがあったので、これ入れたらどうかということだったかと思ひますけれども、今回、括弧を外すということによろしいですね。

あと達成率の話があったのですけれども、いかがですか。

●【i委員】達成率は誤解を与えるだけなので、取ってしまったほうが良いと思います。

●【b委員】私は、達成率は残すべきだと思ひているのです。物事によっては満点にならないよという事項もあると思うのですね。評価点についてだけ申し上げますと、条例のスタート時は100点で始まって3段階の評価しているのです。ある時点から今のように満点が100点でなくなって評価を4分割したのです。分母が170なら170のほうが良いと思うのだけれども、物事によっては170にならない、する必要ない事業も僕はあるのだと思ひているのですよね。170を分母にするか100を分母にするかによって達成率を出す、この絶対評価は必要なのだと僕は思ひていたのですけれども。

●【e委員】達成率という文言が違ふ表記だったらいいのではないかなと思ひます。

結局、分母が違ふから評価がこんなにばらつきがあるのだよって、逆に言えば分母が大きいほうが市民手法をたくさんやっているということになるので、達成率だと、この文言を

変えれば誤解は少なくなるのではないかと思うのですけれども。同じ分母ではないというところですよ。

●【e委員】誤解招くのは間違いないですね。

●【i委員】市民の方とか担当課の方とか見るときに、例えばこの2ページの一覧表見ってしまうと、普通の方がぱっと見ると、8番上のデータヘルスが80%だよねと。一番上の地域公共交通網、これ73.9%だよね。あっ、じゃあデータヘルスのほうがいいのではないのとなってしまうと嫌だなというのがあるのです。

●【b委員】わかります。だからそこは今度点数で、相対評価と絶対評価を加味しているわけだから、パーセンテージだけ見れば、達成率という言葉、つまり、推進会議は170点を目標にするのか、個別のこれはやらなくてもいいのだというところを認めるのかという話になってくるのですよ。以前は100点満点で3段階です。今、170点満点で4段階にしました。やればやるほどこれでいいのかという話にまたなるのですよね。以前は◎なかったのですよ。どんどん加算していったから分母が大きくなるわけですね。達成率とかいう表現ではありませんかねということではいかがですか。

●【i委員】b委員おっしゃることよくわかります◎取ったからといって、達成率が低かったらだめでしょうということですよ。

●【b委員】もちろんそうです。だから、どこをどう加えるかという話です。

●【i委員】だから、そこで分母と分子の兼ね合いが出てくるというのは、評点がよかった場合に初めて出てくるのであって、評点が低い、ここで言ったら7番、8番のようなところ、満点取っても40点とかというところで65%だ80%と言っても意味ないのですよね。だから、こんなところは達成率割り算して、パーセンテージをつける意味はもう既にないのですよ。

●【b委員】だから、そこなのですよ。40点が悪くて80点がいいのかというところがあるのだと思うのですよ。この事業が本当に7項目全部やる必要があるのかどうかということから考えると、手法を選ぶというのにはあり得るのではないかと思っているのですよ。分母が悪いからだめだというのは、ある見方では偏っているのではないかと思うのです。

●【i委員】b委員がご懸念されるのはわかるのですけれども、ただ、実際七つもやっているところなくて、今年もやったのは三つやったのが1事業で、四つやったのが2事業で、五つやったのが1事業で、だからほとんどは三つか四つかなのですよね。

●【b委員】ここで何を求めるかなのですよ。ただ、以前は100点満点とはっきり書いてあったのですよ。それは推進会議の人は多分、100点を求めていたのですよ。だから、分母を個別評価の調査票の中に分母が100って入っているのですよ。

●【g委員】b委員さんのおっしゃることもわからなくはないのだけれども、達成率を載せる意味をどういうふうに考えているのか。市民とか読んだ人がこの数字からどういう印象を持つのかというのも考えないと。例えば、7番の空き家等対策計画の策定というのは、パブコメだけをやったのですよ。それも15日間ということで、基本的には一番短い日数でやったのです。それで、応募はゼロ件だったのです。ある意味、アリバイづくりだけでやったのではないかと。私たちは印象として持った。それが何でこの、左はバツでこれはしょうがないなと私は思うのですけれども、それが何で65点であるかのようにこれを入れる必要があるのか。これは誤解をかえって与えるのではないかというふうに私は思う。

●【c委員】私、2年間やっていますけれども、この表見て一番いいのは3番目なのですよ。92.3点。ああ、これが一番いいなど、そういう第一印象ですね。こういう、今おっしゃられたような、やっている項目が多い少ないとかというのは余りそこまで評価して、頭に入れて見る人はいないのですよね。多分この93点、92.3が一番よくて、そして65.0が一番悪いと、こういう評価になってしまうと思うのですね。だけど、この達成率というのはいさ少し具体的に言えば、この手続ですよね。手続、この評点というのはこの市民参加の手続を評価したのであって、市民参加そのものの内容まで評価したわけではないのですよね。ところが、一般市民は、内容そのものの評価というふうに理解されるのではないかと。だから、これは達成率は除いたほうが、誤解を招くのではないかと思います。

●【e委員】ちょっとずれてしまうかもしれないけれども、分母のことを考えていってしまうと、市民参加の手法を幾つやったかというのを記載するのはだめなのですか。例えば、8番目の第2期データヘルス計画の策定だと1個しかないから、市民手法は一つ。空き家も一つ。手法は一つしか使わなかった、二つだよ、三つだよと、その書き方をどこかに入れるというのはだめですかね。達成率を例えば抜かすのであったら。

●【e委員】だけど、普通、これ見ってしまうと達成率で順番つけてしまいますよね。g委員おっしゃるように、極めて誤解を招きますね。僕らは中身を知っていますけれども、普通の市民とか一般職員だって誤解してしまいますね。

●【e委員】分母が違うのは手法の違いの数だから。

●【e委員】そこもまた問題でしょう。だから、要するに手法を多くやれば点数上がるということですよ。

●【e委員】そうなのです。だからみんなあえて。だから、あえてその本数を書くとか。

●【b委員】いろいろな書き方あるけれども、達成率は削除しましょうか。

委員賛成

●【b委員】それで残りは、c委員も意見があるようだけれども、各委員から提言いろいろいただいています。これをどうまとめるかなのですけれども、これは一つの事案ですけれども、条例改正からいろいろありますので、2年前でしたっけ、条例改正の提言という形でまとめたものが、こういうものがあるのですよ。実は、こういう形でまとめたらどうかかなと思っているのですが、いかがでしょうか。そのためには事務局のほうで作業していただいて、こういうことがあるので、これが全部条例改正だけではなくて、逐条解説もあるし基準・水準もここにあるのだけれども、こういうまとめ方でいかがでしょうか。まず方法論から。今回、提言とか何かに取り込んだやつは削除していただいて、残ったやつをこの推進会議でまたどうしましょうかという議論するために、こういうまとめ方をしただけだったらどうかと思うのですけれども、これを29年の7月に答申として出したものです。これを第3期、4期か、を通じていろいろな意見があって、各委員から意見を出していただいて、ずっと集約してこういう形にしました。あと、こういうことはあるので、こういう整理がいいのかなと思うのですけれども、というのが一つあります。

●【c委員】余りにもまとめ過ぎてしまって、言いたいことが言えない。せっかくこういう機会をつくっていただいたので、一応、提案に対して皆さんからご意見いただく。少し揉んでもらいたいです。

●【b委員】もちろん。ですから、今、話していて申しわけないのですけれども、これを議

論する機会をぜひつくりたいと思うので、とりあえずこれ、もうこれ読んでこられたと思いますけれども、こういうある程度まとめをして、それで議論したらいかがでしょうかということ。それがこの第5期の3年目。

●【c委員】3年目というのは、私たちも来年いっぱいやめるわけですからね。

●【b委員】ですから、冒頭に、年度初めにその議論したらどうでしょうかという。

c委員おっしゃるように、せっかく意見いただいたのだから、省いていかないで、できるだけ議論したいなどは思っています。これ、条例等の見直しと書いてあって、条例だけではないのです。条例があるし、逐条解説あるし、あと基準・水準もあるし、それをせっかく出してもらったのだから、カットしないでまとめたらいかがでしょうかという提案です。

●【c委員】そういう検討する機会があれば結構です。一番心配しているのは、みんな、後々、後倒しで最終的に来年の3月になって時間がありませんので、そういうのは非常に困るので、来年度の初期に、一番先の第1回で検討していただけるのならば、それはそれで結構です。

●【b委員】例えば、2年前のこれもそうだったのですよ。我々2期やっていますけれども、2期目の人たちが6年間やってみて、いろいろな意見集約しましょうよというので条例の改正も含めて、これをやるかやらないかは、また今度、事務局のほうで作業時間もいろいろあるでしょうけれども、という意味ですが、そういうまとめでよろしいですか。

●【事務局】確認よろしいですか。今回のいただいたこの内容を第4期のそういうスタイル。第5期の委員さんの最終でそういう形ではなくて、今回のこれ限定でということよろしいですか。

●【b委員】はい。c委員ご心配なように、1年後にこれやったのでは、もう終わりですねになってしまうから、そういうことも含めて。

●【事務局】とりまとめればいいわけですね。

●【b委員】はい、とりまとめれば。要するに、これをまとめて議論の材料をつくっていただけませんかという気持ちなのですけれども、そんなことでよろしいですか。

●【e委員】事務局は大変だから、誰か委員がやるとか。

●【i委員】ほかにも前文というか、たくさんあると思うのですね。c委員もいっぱいお書きになったし。だから、それを今度集約してということだと思えるのですけれども、大変だから、それぞれ書いたものをコピー取ってまとめてもらって、1回議論したらいいのではないのですか。これ集約するといったら、また大変です。

●【b委員】整理の仕方とすればまさにこのまま議論しましょうかというのも一つ。それと、いやいやそれは大変なので、例えば今回、前のとか答申に、同じような意見もあるから、こういう形というかどうかという形でもいいのだけれども、もっと集約化させて議論の材料にしたらどうですかという二つの案がありますが、いかがですか。

事務局が一番簡単なのは、これ出せばいい。

●【事務局】そうです。集約したときに漏れが出てきてしまうと、またそこで直しとかあると、それでまた時間かかってしまいますよね。

●【e委員】じゃあ、漏れが出たらその場で言うてもらおうというのはだめですか。私はこういうことも実は踏まえていたのですとその場で言うていただいたほうが早いような気がする。つくり直すのはすごく大変だと思うのですけれども、ここで紙から議論したら多分、

まとまらないうちに終わるだけだと、申しわけないのですけれども、私は思うのですけれども、いかがですか。

●【b委員】強調したいところを下線してもらったらどうですか。この資料でいきましょう。各委員から出てきたこの資料で、ぜひ議論の場を1回設けましょう。新年度の一番初めがいいのか、どんなサイクルがいいのか。当初1回目にこれを議論する。当然、手直しして、その条例等の改正というように整理できれば一番いいかなという気はします。ということでもいいですか。

●【e委員】これ長い方は文章になってしまっているから、もう一つ要約したやつを出してもらったらいかがでしょう。要するに、こういうことを条例改正にしたいって、みんなで1行ずつ自分の言いたいことを書いて事務局に出せば、よいのではないですか。

●【b委員】フォーマットでなくてもいいのだけれども、これ、2年前の答申なのだけれども。理由があって課題があって、何したらいいのではないかとこういうまとめなのです。29年7月の答申です。イメージとしてこういう感じでどうですかね。

●【e委員】フォーマットだけ事務局もらえれば。それで書いてしまえばいいではないですか。

●【事務局】フォーマットと29年7月の第4期の答申の、それも参考までに添付させていただいてお送りしますので、よろしくをお願いします。

●【b委員】ということでもいいですか。改めて出し直しをしてもらい再整理をする。

●【i委員】できれば4月にやっていただきたいのですよね。

7月ぐらいにされたらもう抜けてしまっていて、そこに戻るのが大変なので、できれば早い時期に行っていただきたい。

●【b委員】それはわかるけれども、ご意見は賜ります。

●【i委員】事務局にご負担かけないように。

●【b委員】じゃあ、そういうまとめで。残っているのが若干あります。資料としては、広報しろいにどう掲載するかということ。

●【e委員】その辺は会長一任で。

●【b委員】その前に、答申のまとめは、じゃあ会長一任でよろしいですね。

●【e委員】市長の報告、答申のまとめ、広報しろいへの掲載、この3点は会長一任で。

委員賛成

●【b委員】広報資料の説明ありますか。

●【事務局】事務局案で広報掲載（案）を作成しました。先ほど達成率を削除するとか出ましたので、その辺は修正します。

●【b委員】それでは、会長一任いただいたことにしてよろしいですか。

委員賛成

●【b委員】i委員から配られた資料の説明を。

●【i委員】b委員が問題意識持っておられるとおりで、私も全く同じなのですけれども、手法の数を多くやれば点数が増えるというのを、今年度と昨年度、我々がやった対象事業について、それぞれ散布図に落としてみたのです。そしたら、きれいな、これ回帰直線、中学1年生でやる一次関数でこの式の近傍に全部収斂してしまうのです。だから、大体こうなるということを多分会長も予測していて、手法を多くやれば点数が増えるのは

おかしいでしょうと。

●【b委員】それは一応、そういうことになっているから。加算方式に。

●【i委員】それぞれきれいにばらけないで直線上に並んでしまうというのは、やっぱり9人の方の意見を、それを平均で割っているから、平均的なところでこうなってくるのかなと思うのですよね。各点お一人お一人では、それぞれがばらつきがある採点があるのでしょうかけれども、9人の委員の方が出した点数を合計して9で割ると、常識的な線に落ち着くということだと思います。価値観は、同じメンバーでやっていますから、来年度も多分同じことが出てくると思うのです。だからそうすると、手法の数を幾つやったのということを決めれば、大体点数は読めてきてしまうということなのですよ。何が言いたいかというと、良好になるのは75点以上が良好になるという我々評価していますよね。75点以上が良好になる。だから、75点取ってくれば市民参加としては合格だねという見方をしているのだと思うのです。それにいくためには、この手法の数三つ以上やらないといけないというのは明らかだと思うのです。二つだと満点でも65点ですから、75点は満点取って到達しない。だから三つ以上やって初めて75点というのは、我々からしたら合格点が取れると。でも、それはどこで決まるかというと、今は予算案がほぼ決まりますよね。4月越えればもう予算確定しているわけなので、ぜひともその次の会議のときに、第1回のときに、その対象になる予定事業について手法を幾つやったかということをお教えいただきたいと思うのですね。

●【b委員】資料にもその意見が載っていたような気がします。時間も時間ですから、その件はまた後でやりましょう。

●【b委員】そのほかで大事なものは、先ほど出たところで、2年前の提言をまだ進捗管理やっていないので、ぜひ3年目のまとめとして、というご意見もありました。最後に、この2枚目のメモ、お渡ししました。これは全く精査していないのですが、平成17年から31年度までを見越して、どんな手法が行われ、どういう評価したのかなというものをまとめたメモです。1枚目は年度ごとの件数だけなのですけれども、2枚目からは各事業ごとにどの手法を実施したかということがあります。

これ、1ページに戻って、2段書きしてあるのは意味がありまして、さっき言ったように上のほうが100点満点なのですね。評価が三つ、○、△、×。下のほうは、分母が多くなって、評価が四つになっています。

あとは、どういう手法使ったかというのなのですけれども、上下分けた理由はもう一つあって、A、B委員、C委員、D委員、E委員、F委員まであって、上のほうのF委員は情報提供という欄があったのです。下のほうでこのF委員はその他。多分基準・水準を整理して、この情報提供の評価を個別にやり始めたので、多分、なくなったのかなと推測しています。

希望を言えば、来年度、載せたら、非常に参考になるかもしれないと思っております。

それで、また2回目のベルが鳴ってしまいまして、1時間が超過しました。申しわけなかったのですが、これで全部終わりますが、事務局から何かございますか。

●【事務局】市長への答申日程に関して、b委員さんとj委員さんの日程を後日伺い調整させていただきます。

●【e委員】今日回覧したのは、東京の武蔵野市の地域生活環境指標、それから東京国分寺市の事務報告書です。これは事務局にお渡ししておきますけれども、ホームページで見ら

れますので、武蔵野市地域生活環境指標、国分寺市事務報告書、全くこれと同じのがあつと出てきます。興味のある方は見てください。市役所へお渡ししておきますので、市役所の方は見ていただいて、情報の作成と公開では非常に役立っている資料です。

●【b委員】以上を持ちまして今年度は終了となります。1年間ありがとうございました。

[第6回会議終了 午後1時6分]